



第41号

《目次》	頁
〈巻頭言〉	1
〈わたしの愛唱讃美歌〉	2
〈「まきば」トピックス1〉	3
〈特集 新館増築に関して〉	4～5
〈「まきば」トピックス2〉	6～7
〈編集後記〉	8



「まきばの福祉」

愛知老人コミュニティーセンター
シルバーホーム「まきば」運営委員長

田口 博之

2025年4月1日より、愛知老人コミュニティーセンター運営委員長に就任しました。旧理事会時代を含めると、4代目の運営委員長となります。就任から3カ月が経ち、「まきば」の様子も少しずつ分かるようになってきました。

これまでも「まきば」を訪ねるたびに、どこか「ホッとする」という思いを抱いていました。施設全体に感じられる明るさ、入居者の皆さまの穏やかな表情、ゆとりを持って働く職員の姿に、不思議なあたたかさを感じたからです。今あらためて、「まきばは、良い福祉施設だ」という思いを強めています。

「まきば」は、介護付有料老人ホームであり、制度上は「福祉施設」と位置付けられていません。けれども、「幸福で快適な生活環境や健康を支える」という点で、まぎれもなく「福祉の場」だと言えます。

2000年に介護保険制度が創設された際、当時の「まきば」の施設長を教会にお招きし、「介護保険時代の老人福祉」というテーマで講演をいただきました。介護保険制度は、「高齢者の世話は家族ではなく社会で担うべき」という時代のニーズに沿うものでしたが、福祉が「商売」となり、福祉と介護が分離されるという懸念を抱きました。事実、介護は産業として独立し、「介護・福祉業界」と呼ばれるようになり、「老人福祉」、「高齢者福祉」という言葉を耳にすることが少なくなったように思います。もちろん、介護サービス

が福祉の一部であることに変わりはありません。

現在、月に一度行われている「リーダー会議」に参加しています。この会議には、介護リーダー、機能訓練指導員、看護リーダー、ケアマネ、事務長、施設長が集まり、情報共有と運営方針の検討が行われています。引き続き行われる「個別介護方針検討会議」では、入居者お一人お一人のケアのあり方を共有し、必要な見直しがないかを確認します。

また、「まきば」の向かいにある愛知国際病院の井手理事長も加わって「介護医療連携会議」が行われています。医療と介護がチームとなってきめ細やかな話し合いがされている様子を知り、驚きと共に深い感銘を受けました。

「まきば」には、いろいろな意味で「ゆとり」があります。たとえば、法律で決められている介護・看護職員の人員配置基準は3対1ですが、「まきば」では2対1の手厚い体制を保っています。また、リーダー会議への参加を通じて、以前より関心を持っていた「ユマニチュード」の研修が継続的に行われていることを知りました。ユマニチュードとは、ひと言でいえば「優しさを伝えるケア」です。これからの「まきばの福祉」の核になることを期待しています。

まきばは、主なる神が建ててくださった施設です。ここで暮らすすべての人が、安心と尊厳を持って生きることができるよう、祈りをもって共に歩んでいきます。

わたしの愛唱讃美歌

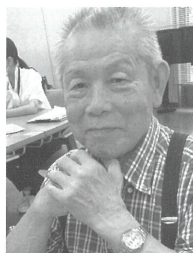
その11

入居者様の愛称讃美歌を紹介するシリーズの第11回目です。
好きな讃美歌にまつわる思い出を伺ってまいります。

堀川 清 兄
(南山教会)

讃美歌(54年版) 405番

かみともにいまして ゆく道をまもり、
あめの御糧もて ちからをあたえませ。
また会う日まで また会う日まで
かみのまもり 汝が身を離れざれ。



好きなというより「讃美歌」と聞くとすぐに思い浮かぶのが405番の「かみともにいまして」です。

母は三重県伊賀出身の新進代議士の長女として生まれ、高等女学校は東京で学びました。婿養子を取り優雅な生活を過ごしていましたが、世情の緊迫化により環境は一変しました。5・15事件が起こり、祖父は領袖の犬養毅首相を失い、代議士を辞して三重県に戻って津市の市長となり、父は戦況悪化の影響でデパート勤務を辞めて紡績会社の地方工場回りになりました。

戦後祖父は幸い焼け残った津市の家屋敷を寄贈して児童養護施設を開設し、その後、定年退職した父に後を託しました。父は10年間を大阪での単身赴任生活で過ごし、母は津へ転居後、園長を務めていた義母の下で養護施設の保母として働きました。気が優しい母は、人手不足の養護施設を中心にあって支え、父親不在の中、7人の子どもと義理の母の家族を支え続けた挙句、胃がんのために67才で死去しました。葬儀は自宅にて仏式で行いましたが、母が日本キリスト教団阿漕教会で洗礼を受けていたことが判明しました。多分、私達が阿漕教会で結婚式を挙げていたことが縁になったのだと思います。生前から父のいない時、母は私達子ども達とよく讃美歌を歌っていたことから、死後、母の命日には、父の不在を見計らって讃美歌を歌うのが慣例となりました。その曲が405番なのです。

7人の兄弟姉妹は3人になってしまいましたが、揃うと歌を歌います。その中には讃美歌が数曲入りますが405番は定番です。これを歌うと優しい母の面影が浮かぶのです。

加藤 依 姉
(熱田教会)

讃美歌21 463番

わが行くみち いついかに
なるべきかは つゆ知らねど、
主はみこころ なしたまわん。
そなえたもう 主のみちを
ふみて行かん、ひとすじに。



父は神奈川県伊勢原教会で牧師をしていました。7人兄弟でしたが、私が6年生の時、戦争が始まって2年目くらいだったと思いますが、父が熱田教会へ赴任したため名古屋に来ました。わたしは熱田教会の「教会の子」として育ちました。熱田神宮のすぐ近くにあるキリスト教の教会だったためか、しょっちゅう憲兵が来て、礼拝堂の入口に座っていつまでたっても帰らないので、母が困っていました。戦争中の大人の礼拝と言えば、牧師家族と幼稚園の主任先生の他1人か2人、全部で10人足らずの出席者でした。

私は父が牧会していた伊勢原教会で幼児洗礼を受け、戦争中、金城女子専門学校附属高等部(今の金城学院中学校)の時、熱田教会で信仰告白をしました。

とてもやさしかった一番上の兄は、戦争中、大阪のメソジスト神学校を卒業して、尾頭橋にあった朝鮮出身の方たちが集う教会で1年程牧会していましたが、空襲が激しくなった頃から心臓弁膜症を患い、30代はじめに亡くなりました。朝鮮の教会の方たちは牧師をととても大切にしてくださいました。戦争中は朝鮮語が使えないために日本語で礼拝をしていました。優しい兄でした。その兄が好きだった讃美歌「わが行くみち」が一番思い出に残っている讃美歌です。

終戦後、若い人たちも教会へ来てくれるようになりました。加藤久雄さんが来て、その後篠田潔さんも来るようになり、2人で神学校へ行かれました。戦後は若い人を含めてたくさんの人が出席してくださって、その内4人が献身されました。その中の一人で、神学校を卒業と同時に熱田教会に着任した加藤久雄牧師と結婚しました。

召天者記念礼拝

昨年5年ぶりの開催となりましたが、今年もゴールデンウィーク前半の4月26日(土)に「召天者記念礼拝」を開催し、先に召された方々のご家族様等、外部から48名の出席があり、共に聖書のみ言葉より神様の慰めと、永遠の命に生かされている事の喜びを聞く時が与えられました。

礼拝後は、場所を食堂へと移し、いつもの様に交わりの時を持ちました。



召天者記念礼拝の様子



村山牧師による説教



ご家族様からは「実家に帰って来た様だ」と懐かしんでくださったり、「『まきば』で看取ってもらえて本当によかったです」と感謝の言葉をいただきました。



食堂にて歓談風景



来年度もこの時期(ゴールデンウィーク前半)の開催になるかと思えます。開催の有無や日時については、事前にホームページにてお知らせすることになるかと思えます。「まきば」ホームページ(silver-home-makiba.jp)にてご確認ください。また、皆様との再会の時が与えられます事を、入居者様をはじめ職員一同楽しみにしております。

特別企画

「隠退牧師館(仮称)」構想から
これまで隠退牧師ご夫妻を受け入れて来た様に

「隠退牧師の終の棲家」へ

これまで、別棟として「隠退牧師館(仮称)」を建設し、隠退された牧師先生やご家族の方々の終の棲家としての活用を検討してまいりました。しかしながら、近年の建築費の高騰等を受け、従来どおり「まきば」にてお受け入れする方向へと方針を変更することといたしました。

「まきば」では、これまで同様、隠退牧師の先生方にご予約いただき、一定の待機期間を経てご入居いただく形となりますが、その体制を維持しつつ対応してまいります。

この方針転換に伴い、愛知県に対して3床の増床申請を行い、すでに承認をいただいております。今後は現在の職員駐車場のスペースに、3つの居室と、職員による介助のもと安全にご入浴いただくための介助浴室を備えた増築工事を進めていく計画です。

新館を増築します

2007年に増築した建物の西側(現在の職員駐車場)に、居室3室と、ホール、介助浴室を備えた棟を計画しています。

増築棟の周りも遊歩道が整備され、新館1周の距離が延長される事によって、日常での機能訓練など、お散歩を楽しんでいただけます。



増築部パース

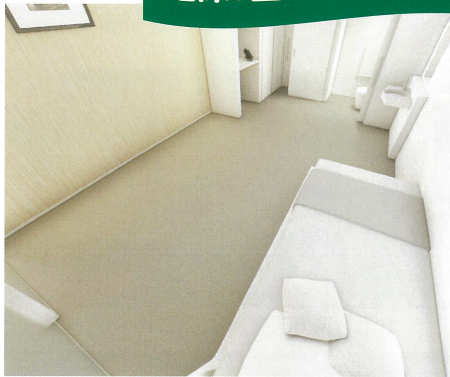
機能訓練の場として



今ある機能訓練室を拡張し、食堂として、或いは集会ができるホールとして、多目的なスペースを設けます。

様々な利用方法について検討しており、新たなくつろぎスペースになればと考えています。

増床3室の居室イメージ



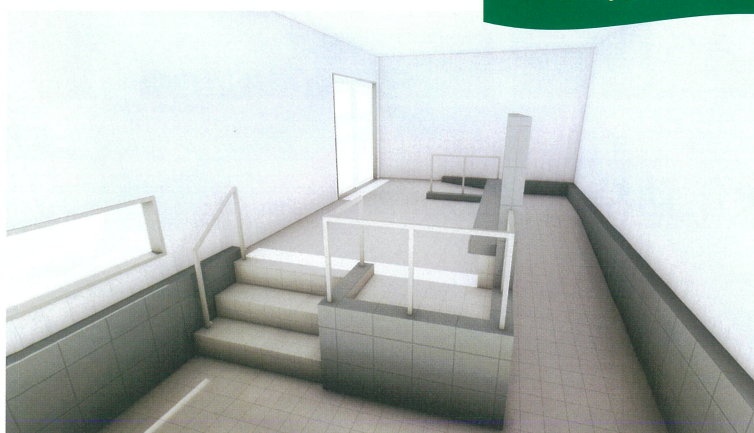
くつろぎスペース(喫茶スペース)として



現在の新館居室に並ぶように全居室南向きに増築します。室内はよりトイレのご利用がしやすいよう考えて設計を進めています。

今ある5階のお風呂とは別に、新たに介護浴室を設ける計画です。今よりも、より安全に入浴していただくために、職員のお手伝いしやすい洗い場や、入湯しやすいようにスロープを備えた浴槽を検討しています。

介護浴室



まきばトピックス

このページでは、日本基督教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や近隣での出来事を紹介するコーナーです。

介護職員・機能訓練指導員の制服が変わりました



介護職員

機能訓練指導員



自立者行楽（ガーデニングミュージアム花遊庭へ）

行楽へ出かけました



介護行楽（にぎりの長次郎へ）



永年勤続者表彰



永年勤続15年の表彰を行いました。

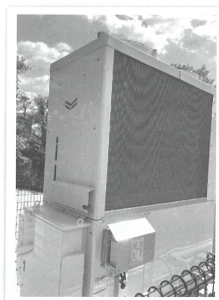
介護職員として、そして介護支援専門員として、長い間「まきば」に於いて、ご入居者様の暮らしを見守り、支えてもらっていることに感謝して。

新館のガスエアコンを更新しました

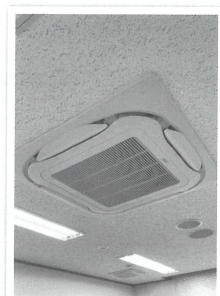
新館が建てられて18年が経過し、今後ガスエアコンが故障した際、交換部品の提供ができなくなる事を受け、新しいものへの更新工事を行いました。



工事作業の様子



自家発電付きGHP



室内機

ボランティア感謝会を行いました



感謝礼拝の様子



腹話術の披露

■愛知老人コミュニティーセンターへの献金報告

献金者芳名(2024年4月1日～2025年3月31日)		
教会福祉献金	匿名2名様、戸田真二様	43,000,000 円
	小 計	金額 43,000,000 円
センター 維持献金	重野了子様、森義旗様、大洞陽子様、中部学院大学様、伊藤和子様、 小林光様、山田和正様、今枝浩様、名古屋学院一委会様、春日井教会様、 宇座和子様、岡崎教会泉の会様、知立伝道所様、岡崎教会様、広路教会様、 中京教会様、南山教会様、 「礼拝」での献金7口、「聖書の集い」での献金7口	247,027 円
	合 計	金額 43,247,027 円

皆様のお支えに感謝します。

献金
振込先

①三菱UFJ銀行 日進支店

宗教法人 日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
運営委員長 田口 博之
普通口座 1162658

②郵便振込

日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
振替番号 00870-4-29934

スタッフ急募

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、
人格を大切に守る介護を実践してみませんか？
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。



看護職員(夜間)

週1日程度から。
曜日に限定がある方は相談に応じます。
【資格】看護師、准看護師
【勤務】18:00～翌8:00(休憩4時間あり)
【手当】精勤手当あり

介護職員(正職員)

【資格】介護福祉士
【勤務】4週8休(変形労働時間制)

介護職員(パート)

【資格】初任者研修以上
【勤務】常勤として4週8休(変形労働時間制)で働ける方大歓迎
※正職員への登用制度あり



●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当:施設長)

入居予約受付中

見学できます(要予約)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
silver home

まきば

シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、
緑豊かな自然に包まれて暮らす…
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

交通機関

名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m
東名高速道路・東名三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・愛知国際病院のすぐ前

類型及び表示事項

施設の類型／介護付有料老人ホーム 居室の権利形態／利用権方式
介護保険／愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護
入居時の要件／60才以上で入居時自立及び要支援の方(要介護の方も、ご相談に応じます)
居室区分／個室及び二人部屋 介護にかかわる職員体制／2:1以上

キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」などの定例会が毎週施設内であり、自由に参加できます。
主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会からバスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究祈禱会」などにも自由に出席することができます。

●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

編集後記

4月から、新しく田口博之運営委員長を迎えました。これまで長い間、運営委員長を担ってくださった下村徹嗣先生に感謝いたします。それとともに今年度、新館増築という新しい事業に取り組みます。新しいことが重なっている今、「主は人の一步一步を定め 御旨にかなう道を備えてくださる。」(詩編37編23節)という聖書のことばを思います。神さまが入居者の方々の日々の生活を守り、恵みで満たしてくださること、シルバーホームまきばのこれからの道行きを導いてくださることに信頼を置き、着実に進んでいきたいと思います。(和田)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
まきば通信 第41号 発行日 2025年8月15日
発行人 田口 博之

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88
TEL.0561-74-5548 FAX.0561-74-5561
ホームページ <https://silverhome-makiba.jp>
E-mail info@silverhome-makiba.jp